

## 第8回一関市総合教育会議 会議録

- 1 会議名 第8回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 平成30年11月21日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 渋民市民センター
- 4 出席者
  - (1) 構成員  
勝部修市長、小菅正晴教育長、千葉和夫教育委員、小野寺眞澄教育委員、佐藤一伯教育委員、伊藤一志教育委員
  - (2) 事務局等  
市長公室長、政策企画課長、政策企画課主幹、政策企画課政策企画係長、教育部長、一関図書館長、教育部次長兼学校教育課長、教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長、一関市博物館次長、教育総務課長、教育総務課長補佐兼庶務係長
- 5 議題  
子どもを育む地域文化の伝承について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 報道 2社
- 8 挨拶  
市長挨拶

本日は第8回の総合教育会議で、国指定重要文化財となった木造観音菩薩坐像、民俗資料館の開館といった、今、話題のある渋民地区で行います。芦東山記念館を含め渋民地区の文化的財産は、これから市全体の重要な財産になってきます。今回のテーマは、「子どもを育む地域文化の伝承について」ということですが、子ども達が大人になった時に地元を離れても、地元地域との関係がつながっていれば、戻ってくるきっかけになるのではないかと思います。若者に戻って来てもらうためには、企業誘致という方法もありますが、それに頼るのではなく、若者を地元と呼び寄せ、地元を根をはる対策として、地域文化の伝承について考えていきたいと思っております。

子どもを育む地域文化の伝承について（進行：教育長）

懇談前に民俗資料館を見学

教育長 今回は、「子どもを育む地域文化の伝承について」というテーマですが、まず、民俗資料館を見学した感想についてお聞きします。

伊藤委員 この地域の農村の歴史を展示しており、身近に貴重な資料があることが分かりました。

佐藤委員 昭和30年代の農村の暮らしや生活用具の展示があり、良い施設だと感じました。前に一関市博物館で刀剣の展示があり、刀を造っていた人が後に農具を造るようになったとの解説がありました。市内の民俗資料は広域に点在していますが、一つの場所で見ることができる施設として意味があると感じました。

千葉委員 貴重な資料が揃っていますが、児童・生徒たちがここに来て見て説明を聞いて、どれくらい理解ができるのか、実演無しでは難しいのではないかと思います。イメージが浮かぶように、ボタンを押すと映像が流れるようにすると分かり

やすいと思えました。

小野寺委員 実演は大切だと思います。地元の人たちの協力を得て、年に何回か校庭を使い、昔の生活や食べ物、遊びなどを体験できるお祭りを行い、その中で農機具の実演もしてみたらよいのではないかと思います。また、「渋民」というと盛岡のイメージがあり、一関にもあることをアピールしたほうがよいのではないかと考えています。芦東山についても、もっと宣伝していくとよいと思います。

教育長 民俗資料館は、来る人の年代で反応が異なります。60代以上の人には懐かしいようですが、子ども達は解説を聞いて、そうなのかという反応になるかもしれません。今の生活用機器は、中身がブラックボックスですが、昔の道具は仕組みを目で見ることができ、自分たちの頭と手を使い作ったものですから、その発想に学ぶべきところはたくさんあるのではないかと思います。

市長 道具を作ることはものづくりの原点だと思います。どういう道具を作るかというところから考えなければなりません。今は、買えば道具は揃いますが、昔は、何のためにどういった場面で使うのか考えただろうと思います。そのような流れを学習するようになればよいと思います。芦東山は、最近中国の研究者からも関心を持たれ、また、雑誌にも連載が掲載される予定です。民俗資料館と木造観音菩薩坐像と芦東山記念館などを併せて宣伝すればよいのではないかと思います。

教育長 他にも、民俗資料館についてご提案はありますか。私は、解説のほかにクイズ形式やゲーム的なものを取り入れるのもよいと思います。

市長 祖父母の方々と一緒に来館するのがよいと思います。

教育長 そういう日を設定するのもよいと思います。

市長 館内の掲示物は市民学芸員によるものとのことですが、高齢者大学や老人クラブの事業に盛り込んで世代間交流を図ってみてはどうかと思います。

佐藤委員 市民学芸員により体験イベント等で再現したり、体験行事自体を観光として行うこともよいのではないかと思います。

教育長 最近の博物館などは、手に取ってみたり体験することが大切で、解説文だけではなかなか人が来ないようです。できることは極力させてみるのがよいのではないかと思います。

千葉委員 休耕田を市で買って実演するイベントを行ってみてはどうかと思います。

伊藤委員 地域の多くの小・中学生にこの民俗資料館に来てもらい、地域の素晴らしさを知ってほしいと思います。

佐藤委員 民俗資料館と木造観音菩薩坐像と芦東山関係を1つの観光スポットとしてPRしていくことが重要だと思います。

教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長：資料No.3と資料No.4により説明

市長 中里鶏舞踊り隊の方々には、先日の柵の瀬橋の開通式の際にも披露していただきましたが、とてもうまくいっている例です。団体によっては、子ども達が忙しく、定期的に集まって練習するのが難しいということもあるようです。

教育長 中里鶏舞踊り隊の方々には、全国都市教育長協議会の歓迎レセプションでも

披露していただきました。県外の人達には、初めてなのでインパクトがあったようです。本寺地区神楽については、地元から有志が出てきたことは素晴らしいと思います。学校で行ってきた伝統芸能が統合によって難しくなっていることは、大きな課題となっています。中には、市民センターで講習会を開いてつながった例もありますが、どの団体においても発表の機会を持つことが大切だと思います。

千葉委員 郷土芸能の存続について、教育委員会で働きかけができないでしょうか。統合前の大原商業高校の鹿踊りについて、統合後、全国大会で好成績を修めたことがきっかけで、大東高校で定着したとのことで、やはり、発表したり評価される場が大切であると感じました。

伊藤委員 児童・生徒にとって、伝統芸能に関わることで、自己表現の機会を得ることや、自分自身に自信が持てるという良い面があります。また、周囲の人間関係や地域の結束が深まる効果もあります。一方で、おひねりを期待してしまうという残念な部分もあります。

教育長 小学校の 28 校中 14 校が鶏舞に取り組んでおり、今取り組んでいるところについてはぜひ継続して行ってほしいと思います。

千葉委員 統合前の学校の取組を統合後の学校でも積極的に受け入れるとよいと思います。

小野委員 学校だけでなく、民俗芸能を継承する団体が市内の子ども達に教えて継承できるようにするとよいと思います。

教育長 現在のところはそれぞれの地域と学校が中心ですが、地域を越えた取組として面白いと思います。

小野委員 先生方は転勤があり、地域のことを深く勉強する時間をなかなか持てないと思いますし、伝統芸能に関われない子ども達もいますので、市で副読本を作ってほしいと思います。

市長 自分が育った地域とその文化について自信を持って語る事が大切であり、若者とふるさとを結び付ける力になると考えています。

教育長 地域文化の伝承を通じて、人口減少問題にアプローチする方法について今後も引き続き考えて行きたいと思います。

## 9 担当課

市長公室政策企画課